

鹿児島県版

学校事務のグランドデザインVer1.1

I'm gonna be the Total producer!



平成29年2月



鹿児島県小中学校事務職員研究会

鹿児島県版学校事務のグランドデザイン (Ver1.1)

〇はじめに

鹿児島県小中学校学校事務職員研究会（以下、鹿事研）は平成24年度に「鹿児島県版学校事務のグランドデザイン」を策定し、その具体的な取り組みを実行してきました。5年というひとつの節目を迎え、私たちは「学校の教育目標を実現し、子どもの豊かな学びを支援する学校事務」という目標をどの程度達成できているのでしょうか。また、学校を取り巻く社会や経済の急速な変化、社会のつながりや支えあいの希薄化により学校の抱える課題が複雑化・多様化しています。中教審答申等の国政の動向、政令市への給与費移譲と任用一元化、共同実施の全県実施、会員へのアンケート結果などの状況も考慮し、グランドデザインについてもう一度考えてみたいと思います。



〇【 グランドデザインの必要性について 】

グランドデザインとは、「全体を長期的、総合的に見渡した構想」であり、「全体構想」と言い換えることもできます。「学校事務のグランドデザイン」は我々事務職員だけでなく、教職員、保護者、児童生徒、地域、そして社会全体の願いや想いの集約であり、子どもたちの豊かな学びを推進していく羅針盤の役割を果たすものです。

何のために学校事務はあるの？

なぜ事務職員は学校にいるの？

事務職員の仕事って何？

学校事務職員の存在意義を問い直す

事務職員の統一した目標
あるべき姿
めざすべき事務職員を具体化

●グランドデザインを策定することで、私たち事務職員が自信を持って仕事に取り組めるようになります。さらに学校教育力の向上に貢献でき、子どもたちの笑顔が増えることにもつながると考えます。

○現在の状況

現在、教員は子どもたちとしっかりと向き合う時間が確保されていない状況だといわれています。十分な教材研究、授業改善、子どもたちとじっくりと話し合う等の時間を確保することは、質の高い学校教育を持続するために不可欠です。今までは、学校や教員の熱心な取り組みや大きな負担の上で、子どもに関する問題に対応してきている状態でした。今後も、この献身的な教員像を前提とした学校の組織体制では、膨れ上がる学校の課題には対応することは難しいといえます。

これらの課題解決のため

協働

「チームとしての学校」が求められています。

これからは多様な専門スタッフが責任を持って学校組織に参画することで、教員は授業や生徒指導に専念できる状態にしなければなりません。また、多職種による協働を学校に取り入れ、教員が担うべき業務や役割を見直していくことも中教審答申などで求められています。校長のリーダーシップの下、多様な専門スタッフや教職員が自らの専門性を十分に発揮することで、「チームとしての学校」の総合力、教育力が最大化できるような体制を構築することが大切なのです。

事務職員に対しても、「学校運営事務に専門性を有している」として、学校経営への積極的な関わりを期待されています。より広い視点を持つ学校経営スタッフとなり、学校運営の重要な役割を担う必要があります。また、教員の事務業務が複雑化・多様化している学校の事務に対し、事務職員が権限と責任を持って処理することで対応することも求められています。学校事務体制の充実を図ることは、「チームとしての学校」、そして学校の協働を実現するために重要なのです。

そして、「チームとしての学校」の実現や事務職員の人材育成、学校間の連携を推進していく観点から、事務の共同実施による協働も重要になってきます。今後は共同実施組織を法令上に明確化することの検討を進めることが挙げられています。共同実施の優れた事例の収集や周知を行うことで、学校における事務機能の強化を促進することを目指しているのです。

平成27年12月に出された「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」及び「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の改善方策について」の二つの中教審答申では、学校運営における事務職員の存在が大きくクローズアップされています。このように国の様々な教育施策の中で、事務職員について言及されることが多くなってきました。それは事務職員に対する期待の高まりと受け止めることができます。私たち事務職員は、その期待に応え、学校運営チームの一員としての役割を果たしていく必要があります。それによって、学校運営の充実・改善が図られ、ひいては子どもたちの豊かな育ち

につながるものと考えます。この期待に応えるのか、否かによって学校における私たち自身の存在意義が変わってくるでしょう。

期待に応えるために私たちは

自己研鑽

と

自覚

が必要だと考えます。

求められる役割を果たすためには、事務職員自身が、校長を補佐し学校経営を担うという自覚を持ち、めざす事務職員像を実現するため、研究と研修を積み重ね、個人だけでなく事務職員全体の資質向上を図ることが必要になってきます。

「鹿児島県版学校事務のグランドデザイン」の中でも、事務職員は学校事務のトータルプロデューサーをめざすことを掲げています。求められている役割を果たすことは、このトータルプロデューサーになることと同じだと考えます。

- ◎事務職員自身の意識改革⇒ 協働 定型業務から調整・判断業務へ 個から組織へ
- ◎事務処理の効率化⇒ 共同実施の活用 PCやマニュアル化による処理時間短縮
- ◎事務職員の資質能力向上⇒ マネジメント力向上

グランドデザインでは、この3点をトータルプロデューサーになるために必要な変革だとあげていました。この点に関する考え方は継続していきます。

学校において求められる、そして私たちがめざす事務職員の姿は、このトータルプロデューサーであることには変わりはありません。高い目標を掲げ、めざしていく意義を考えましょう。

○アンケート分析

平成24年度と平成28年度に鹿事研会員へアンケートを実施しました。「鹿児島県版学校事務のグランドデザイン」の実行策による変容、成果を比較するためです。質問内容は比較分析するために2回とも同じ内容になっています。

アンケートの内容

グランドデザインの実行策から

- ① 「共同実施により新しい学校事務を創る」
 - ② 「事務職員の資質向上への取り組み」
 - ③ 「学校教育目標実現のための取り組み」
- } に関する質問 計 17 問

アンケートを分析してみて

【 全体を通して 】

- H24 からH28において会員の意識は概ね高まっている
- 研修会等に参加することが意識や理解度を上げるきっかけになっている
- 具体例や実践事例の情報を得る機会が少ない
- 事務職員に対する研修体制は不十分である
- グランドデザインの認知度が低いのは周知不足からである
- 鹿事研研究大会，広報誌の情報は影響が大きい
- 情報を得る手段はホームページ等が高くなっている
- 共同実施の全県実施による意識の変化がみられる

【 特徴的な変化 】

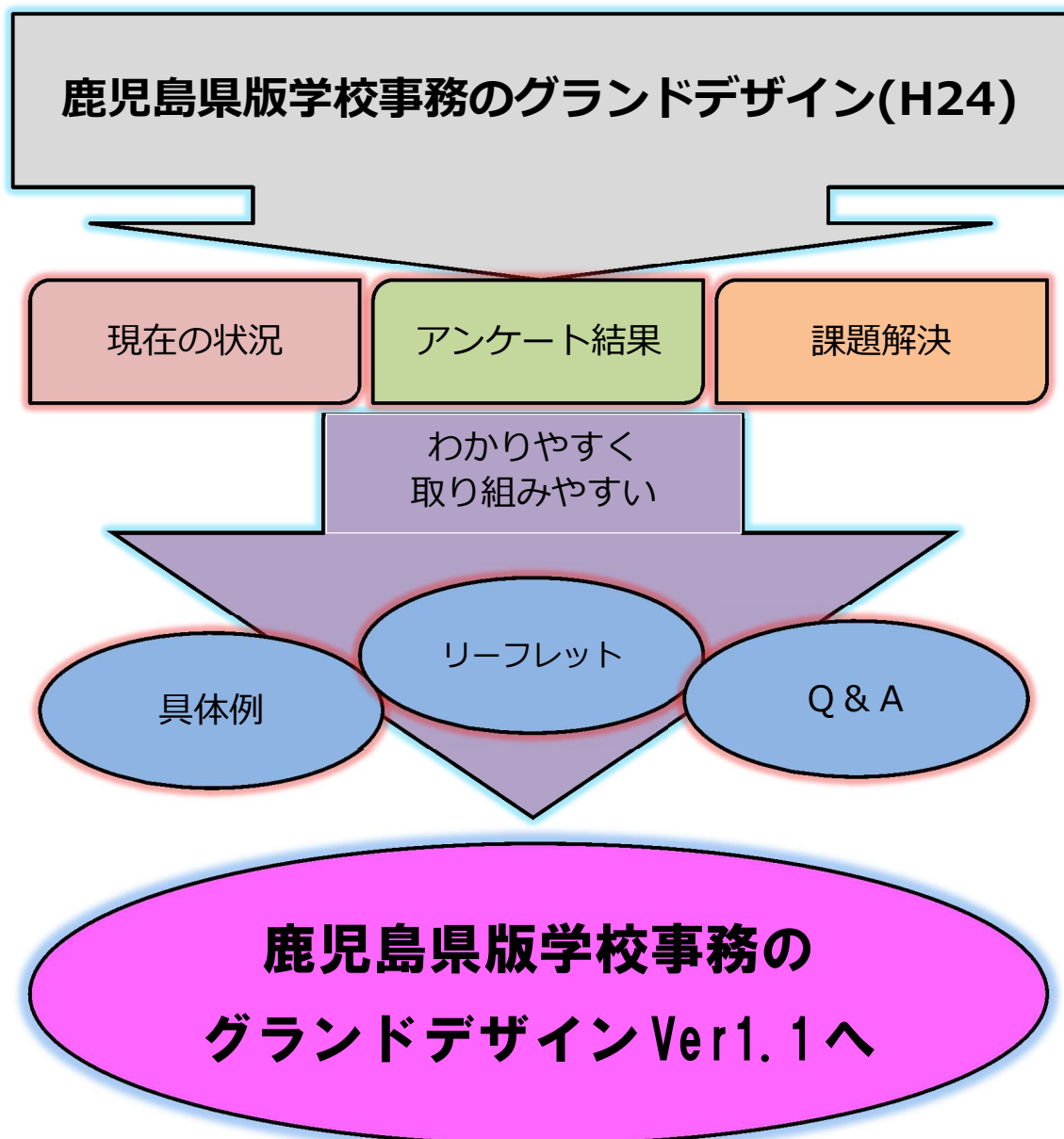
- 全国レベルの研修会（文部科学省の中央研修等）への参加は効果大きい
- 共同実施のOJTについては理解が低いので，具体例等を提示する必要がある
- マネジメントに対する理解が進んでいない 実践例や具体例が必要
- 学校事務と教育活動の連携，教育支援への意識は高まってきている
- 事務長制度に対する理解が低くなっている

【 課題と解決策 】

- 鹿事研大会，研修会等への参加者を増やす
- 全国的な学校事務の実践事例情報を収集し，提供する機会を増やす
- 具体的事例，実践例の情報が得られる機会を増やす
- 情報発信方法を検討する（ホームページ，広報誌，研究大会，研修会等）
- 事務職員の研修体制の充実を県教委等へ働きかける
- 官制研修の限界を鹿事研の研修で補う方法も検討
- グランドデザインについてわかりやすい言葉による説明が必要
- 事務長制による学校の事務処理体制の変化を例示する必要がある
- 全事研熊本大会への参加が会員の意識を高めているため，同様の大会への参加を促す

鹿児島県版学校事務のグランドデザインの変更点

これまでの状況を考慮したところ、グランドデザインは必要であり、私たち事務職員の羅針盤の役割を果たすものであることに変わりはありません。また、平成24年度に策定されたグランドデザインを大きく修正する箇所はないと考えます。課題を克服するためには、グランドデザインをみなさんが理解し、行動してもらうことだと思います。このため、よりわかりやすく、そして取り組みやすくすべきと考えました。



私たちの毎日の業務はすべて子どもたちの教育につながっています

◎ 鹿児島県版学校事務のグランドデザインのおさらい



○グランドデザインはなぜ必要なのでしょうか？

学校事務のグランドデザインは事務職員だけでなく、教職員、保護者、児童・生徒、地域、そして社会全体の学校教育に対する願いや想いを実現するための学校事務を基軸とした見取り図であり、地域とともにある学校づくり、学校力の向上、子どもたちの豊かな学びを推進していくための羅針盤の役割を果たします。策定し実行することにより、長期的な視野に立って教育活動と学校事務が連動し、これからの学校事務の在り方や事務職員の進むべき方向性を指し示すことができると考えます。

○グランドデザイン策定による効果は为什么呢？

まず、私たち自身が学校という組織の一員だということを意識できるようになります。そして、何のためにここにいるのかを理解し、事務職員が果たすべき役割に真摯に向き合うきっかけをつくることができます。

毎日、無意識に事務処理をするのではなく、すべてが子どもたちの教育に関わることなのだという意識を持ちながら日々の業務に携わることが、子どもたちの笑顔や学校教育目標達成の一歩になるはずです。

○グランドデザインの活用方法

日々の業務に対するモチベーションが下がった時などに、読み直してもらうことをお勧めします。事務職員の存在意義を再確認してください。

そして、人事評価記録書へ今年度の目標を記入するときなどにも参考にしてください。自分の仕事を客観的に見ることになるため、目標を立てやすくなります。

○学校のトータルプロデューサーとはどんな仕事？

例えば...



「学校のトータルプロデューサー」というと、なんでもできるスーパーマンのような人を思い浮かべるのではないのでしょうか。言葉のイメージが強くなってとても無理と思われた方もいたかもしれません。

私たちが考える役割のひとつは、「全体の流れを見ながらつなぐ役割、スムーズに進むようにすること」を考えています。

学校の中で仕事を進めていくとき、一人でしかできない仕事と職員と協働して進める仕事があると思います。協働で進める場合、職員との連携はとても大切です。外部との連絡、調整、物品の購入、地域のいろいろな情報を探すなど、やるべきことは多岐にわたります。これらをつないで、つむいで、協働で創りあげていく、子どもの学びをコーディネートする役目ができることがトータルプロデューサーの役割だと考えています。

ならばなぜ、「コーディネーター」ではいけないのかとなります。これはもう一つ重要な「トータルプロデューサー」の役割、学校経営スタッフとしての役割があるからです。教育部門と事務部門をつなぎ、学校をスムーズに動かすようにするために、学校事務をより把握する統括者である必要が出てくるからです。

また、定型業務である事務処理業務から企画や調整、渉外、判断業務などのマネジメント中心の業務へと軸足を移していくことも求められています。

この他にも、共同実施内の事務職員の組織力を活用して、各学校の事務レベルを高め、地域の学校の教育力向上をめざす役割もあります。

「学校のトータルプロデューサー」は、スーパーマンでなく、私たちが目標とする、めざすべき事務職員像であるといえます。さまざまな要因があるため、すぐにそこに到達するとはいえませんが、自己研鑽、マネジメント能力向上を高める努力を継続しながら、めざしていくことが必要だと考えています。

○グランドデザイン実行策とは何ですか？

「誰が、何を、いつまでに、どのように取り組むか」グランドデザインの目標実現に向けた具体的なプロセスを描き、実践的な項目、期限を設定し、取り組み活動を進めます。取り組みをするのは、鹿事研会員です。実行策をもとに、鹿事研本部・各専門部が今後の事業計画を策定し、鹿事研全体の活動計画とリンクすることで、グランドデザインの目標達成を目指します。

○グランドデザイン実行のために 3つの目標



ちなみに

●共同実施により新しい学校事務を創りましょう

共同実施という事務職員の組織化で学校教育力の向上をめざします。私たちは組織化という意識改革を受け入れ、チームで子どもたちの学びの時間を確保するために一歩踏み出す決断が必要です。これまで積み上げてきた学校事務を引き継ぎながらも、新しい学校事務の在り方を考え、実践する前向きな気持ちを持ちましょう。

●資質能力の向上に取り組みましょう

現状に満足せず、自己研鑽のため、研修には進んで参加し、学び続けましょう。学校事務の専門性を高め、視野を広げ、新しいことにもチャレンジする気概が持てるよう、常にスキルアップを図ります。子どもたちと話をする、校内巡視をする、授業を見る、行事に参加する、地域の方と話すなど少し目先を変えることで意識のベクトルが大きく変化します。これらの積み重ねからふとした思いつき、何かを感じ取る力が磨かれて、よりよい学校づくりへとつながります。「学校のトータルプロデューサー」になることは、私たちがめざすべき事務職員像なのです。

●学校教育目標実現のために取り組みましょう

私たち事務職員が学校において果たすべき役割に真摯に向き合い、求められている職務を積極的に遂行しましょう。学校の課題を理解し、その解決に向けてすべての職員と連携して取り組みます。これからは事務処理業務からマネジメントを意識した業務へと軸足を移していきます。学校で子どもたちの様子を見ることができる事務職員は、いま学校で何が必要とされているかわかる立場にいるはずです。すべては子どもたちの笑顔のために。

グランドデザイン実行策のポイント

- 現在の状況、アンケート結果、今後の見通し等を考慮して、実行策の役割や取り組み内容を見直し、実践の重点化ができるようにします。

【現在の状況からわかること】

- ・ 学校の抱える課題が複雑、多様化し、学校に求められる役割も拡大する中で、学校や教員だけでは解決できない状況になっている。
- ・ 教員は授業以外の事務業務の時間が長く、児童生徒と向き合う時間の確保と指導力向上ができる環境を整備する必要がある。
- ・ 共同実施による事務職員の連携・協働を進め、事務処理の効率化、質の向上を図ることで、学校事務体制を強化していくことが求められている。

【アンケート結果から見えてきたこと】

- ・ 研修会・研究大会等へ参加することが意識や理解度を高めている。
- ・ 共同実施の全県実施により、意識の共有化ができつつある。
- ・ 学校組織マネジメントの理解と実践については、継続した説明が必要。
- ・ グランドデザイン及びトータルプロデューサーの認知度を上げる。
- ・ 共同実施での教育活動支援への取り組みが少ない。意識を高め、実践を促す。
- ・ 研修体制が不十分。関係機関への働きかけと鹿事研での研修が必要。
- ・ 事務職員制度（事務長制等）について会員の理解をさらに深める必要がある。
- ・ 情報発信について、ホームページや広報誌などをさらに活用して広報する。

課題解決の向けて

鹿事研各部・専門部は、これらの課題を考慮した具体的取り組み内容を作成し、今後、解決に向けた実践活動を始めましょう。

● 具体的取り組み内容のポイント

- ※ 3～5年程度を課題解決期間と定め、目標と取り組み内容を作成しましょう。
- ※ 各部・専門部の特性を伸ばしながら、会員の意識、資質能力、モチベーション向上が図れる取り組み内容を作成して、実行しましょう。
- ※ 「学校の教育目標を実現し、子どもたちの豊かな学びを支援する学校事務」を達成することが最終到達目標となります。

○実行策1

1 共同実施により新しい学校事務を創りましょう

目標達成のため実践に取り組みましょう



共同実施における

- ・ **組織化について事務職員の意識改革を進めます**

本部・各部は研究大会，広報誌，ホームページなどを利用した働きかけを継続する

- ・ **OJTについて研究します**

研究及び情報収集し，研究大会等で紹介する

- ・ **事務処理のシステム化・ICT化を研究します**

研究及び情報収集し，研究大会等で紹介する

- ・ **各関係機関との連携を図り，理解を深めます**

事務局を中心に県・市教委，校長会，教頭会等への連携を進める

- ・ **学校教育力向上及び教育支援について取り組みます**

全国の実践事例を収集し，広報誌やホームページ等で情報を提供する

- ・ **会員個々の取り組み**

- ・ 学校種，規模，地域性にあった共同実施を模索する
- ・ 小中連携を考慮した共同実施をめざす
- ・ 教育活動支援への取り組みを進める

○実行策2

2 資質能力の向上に取り組みましょう

目標達成のため実践に取り組みましょう

事務職員の

・ **トータルプロデューサーについて周知します**

本部・各部は研究大会、広報誌、ホームページなどを利用して情報を提供する

・ **研修制度について研究します**

情報収集と研究を進め、事務局は官制研修の充実を関係機関に働きかける

・ **職制について研究します**

全国の事務長制等の事例を収集し情報を提供する

・ **世代交代をスムーズに進めます**

ベテランから若手への経験値の継承を進める

・ **会員個々の取り組み**

- ・ 各種研修に積極的に参加し、自己研鑽を積む
- ・ 個人の研修成果等を共同実施内全員のスキルアップにつなげる
- ・ 自己のキャリアイメージを持ち、次のステージへの能力向上を図る

○実行策3

3 学校教育目標実現のために取り組みましょう

目標達成のため実践に取り組みましょう

学校教育目標実現のために

・ **学校組織マネジメントを推進します**

本部・各部は学校組織マネジメントについての研修を継続する

・ **教員の事務負担軽減を図ります**

全国の実践事例を収集し、情報を提供する

・ **学校財務と教育活動をつなげます**

本部・各部は学校財務について実践事例等の情報を収集し、研究大会等での研修テーマとする

・ **教育課程への理解を深めます**

本部・各部は教育課程についての研究及び情報の紹介を継続する

・ **会員個々の取り組み**

- ・ 自校に関わる全ての予算把握と効率的執行をめざす
- ・ 自校の課題を理解し、その解決策を探る
- ・ 企画運営委員会に関わり、学校運営スタッフとなる
- ・ 教員・保護者・地域と積極的に連携し、学校を改善する



○グランドデザインQ&A

① 事務職員の経営参画とは？ まずはこれから・・・



参画という言葉の意味は、「政策や事業などの計画に加わること」とあります。「仲間入りすること」を指す参加とは意味合いが違うことを理解してください。

では、事務職員はどんな仕事をすれば経営参画なのでしょう。企画・運営委員会に参加すれば、「経営参画してますよ」というほど単純なものではないと考えます。

ひとつの例として、先生たちがどんな授業をしたいのか、どんなものがほしいのか、というところを具体的にわかるようになってほしいです。そのために、授業を見に行くことを勧めます。普段の授業でも、研究授業でもいいので、事務室から出て教室を回ってみてください。そして、「こんな授業がしたい」という先生に対し、「こんな教材や工夫ができますよ」と逆提案するくらいの知識と経験を積み、キャッチボールができるようになってみてください。まずは教育活動を知ることが大切だと考えます。

授業のこと、教材のこと、子どもたちのことで教員と話ができるようになることをめざしてほしいです。授業を見ることで、先生がどのように子どもたちに学ばせたいのかがわかり、教材の必要性や重要性がわかると思います。教材についての使用状況を見ること、学級設営の状況を見ることで、先生と共通した話題で話し合えることになります。意見を求められたり、提案したりできることで、授業や学級のイメージを共有することは、学校にいる教職員としてとても大切なことだと考えます。関わりあうことで、事務職員も教育的な感動体験を共有でき、学校にいる教職員としての自覚と責任、意欲とやりがいを持つことができると思います。

その他の例としては、旅費事務。今年度の教育課題に照らし合わせて、教員に他県への研究公開等へ参加させることで、課題解決と教育目標達成の糸口、教員自身のスキルアップ等が図られることを目的とした、旅費執行予定を校長へ説明することも考えられます。もちろん、旅費配当予算と執行状況、見込みをデータとして提示し、校長の意思決定を補完することが、経営参画といえるでしょう。

大切なことは、自校の状況を把握し、より良い方向へ教育活動を進めるために自分なりに何ができるのかを考え、実践していくことです。自分の担当分野を生かし、情報を収集、分析し、他職員と連携・協働しながら、学校運営に関わっていくことで「参画」といえるのではないのでしょうか。



② ビジョンやミッションとは何ですか？

例として、西遊記で考えてみるとわかりやすいでしょう。

ビジョンというのは旅の目的地だと考えてください。西遊記の場合は天竺という目的地がはっきりしています。どんなことをしても天竺へ行くというビジョンがあるので、三蔵法師についていけるのです。そのときはなるほどと思っていたビジョンも、時間が経つにつれ気持ちのゆるみや悩みが出てきます。何で私は天竺に行きたかったのか、と。そのとき大事なのがミッションです。自分が生きてきた使命。旅に出ている理由。ビジョンは旅の目的地。ミッションは旅に出ている理由と考えてください。三蔵法師は目的地に着くまで、孫悟空、沙悟浄、猪八戒にビジョンを示し、ミッションを伝え続けなければなりません。

今の現在地を知るために、学校評価を行います。そして、みんなが行きたいなと思う目的地を決めることが、重要になってきます。目的地（ビジョン）に行くための予算面を含め、どう支援するかが事務職員の腕の見せ所でしょう。現在地と目的地をつなぐ道のりが戦略となり、困難な問題をみんなで解決し、協働しながら進まなければ目的地にたどり着かないのです。

③ 学校事務職員の役割はどのように変わのでしょうか？

誰にでもできる事務処理は、パートや非常勤職員へ置き換えても大きな問題はおきないでしょう。親切丁寧なマニュアルとサポート体制があれば誰でも学校事務はできるはずです。ここに専門性を求めようとするとう無理が生じます。どこに学校事務職員の専門性を見出すのでしょうか。これは古くて新しい問題でもあり、そもそも学校事務に専門性はあるのかということから始まるのですが・・・

さまざまな意見がありますが、ひとつは行政職員としての知識と積み重ねた経験があります。これとあわせて、教育や学校運営組織についての知識や経験もあります。これらふたつを組み合わせた「企画・提言」「調整・判断・総括」が学校事務職員の専門性と言えるのではないのでしょうか。

今までの事務処理中心から企画・調整・判断業務へと私たちの役割は変わっていかねばなりません。

④ 共同実施とグランドデザインはつながるのでしょうか？

事務職員は学校に1人配置がほとんどです。ベテランから新規採用者、臨時職員の方も同じ仕事をしています。学校によって経験や能力の差が事務のレベルに出てくる状況は、1人配置の弱点と言えるでしょう。これを組織化により解決することができるのが共同実施といえます。

共同実施で取り組んでいる「事務の効率化」は目的ではなく手段です。共同実施の目的はあくまでも「教育活動支援」ということを忘れてはなりません。共同実施はいろいろな形・やり方があっていいのですが、めざす目的は「教育活動支援」なのです。

グランドデザインの中にも、目標達成のために共同実施による組織化は必要だと述べられています。共同実施を活用して各学校の学校事務レベルを高く保つことは、自分の学校の子どもたちだけでなく、その地域の子どもたち全員の笑顔にもつながります。

⑤ 任用一元化になるとどうなるのでしょうか？



私たち学校事務職員は長年の経験の中で、意識することなく子どもたちの教育に対する使命感と役割を身につけてきたといえます。他県では任用一元化が始まっています。これにより、知事部局や市町村役場からの職員が学校事務の現場に入ることになりますが、事務処理自体は問題ないと思います。なぜなら、役場職員は3、4年ごとに全く違う課に配属されて、それを処理しなければならない仕事をしています。それからすると学校という職場は庶務的な事務が主なので問題なく処理できるはずです。

ここで、我々事務職員と役場からの事務職員との違いは何でしょうか？この差が学校での私たちの存在意義や教育支援のヒントになると考えます。

ただ、事務処理をするだけなら公務員でなくてもできるでしょう。派遣職員や非常勤職員でもしっかりとしたマニュアルとサポート体制があれば大丈夫です。このことから、学校事務は学校事務職員でなければできないのか、という問いに答えを出さなければなりません。みなさんだったらどのように答えますか？

任用一元化はメリット、デメリットがあります。このメリット、デメリットは誰にとってのことなのかも重要になってきます。もちろん、子どもたちの教育にとって考えるべきです。この観点からメリットが多ければ推進すべきことになりますが……。この答えを出すのは私たちではないことは確かです。

⑥ グランドデザインを活用しよう！

グランドデザインは、学校事務職員が子どもたちの教育に関わっていることを意識してもらうために策定しています。私たちの毎日の業務はすべて子どもたちの教育につながっているのです。給与電算入力も、旅費計算も、備品購入手続きも、電話や窓口来客対応なども・・・日々行っているすべての仕事は、子どもたちの笑顔を増やすことにつながっていると考えます。学校に事務職員がいる意味を問い直していくことは、私たちが果たすべき役割に真摯に向き合うことになり、学校事務の在り方を考えるきっかけになると思います。ぜひ、グランドデザインを活用していきましょう。



〇おわりに

文部科学省は、私たち事務職員の使命として「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を掲げています。そして鹿事研は、めざすべき事務職員像を「学校のトータルプロデューサー」としています。

これらはみなさんにとって、高すぎる目標に思えるのではないのでしょうか。また、漠然としていて特にこれからを担う若い事務職員にとっては、わかりづらいかもしれません。現実的には、学校において日々の業務に追われ、このような大きな目標を考える余裕のないことも考えられます。しかし、私たち事務職員によって学校が変わり、地域や子どもたちもよりよくなる可能性があることを知ってほしいのです。

冒頭でも示したとおり、グランドデザインとは羅針盤です。平成23年度に策定した「鹿児島県版学校事務のグランドデザイン」では「学校のトータルプロデューサー」の必要性、そのための能力、課題と解決策などを示しました。そして今回の「鹿児島県版学校事務のグランドデザイン ver.1.1」では、Q&A方式や用語集などで理解しやすくし、また、ステップアップ表では現状や今後の展望をわかりやすく説明しました。

「学校」とはどうあるべきか、「教育」とはどうあるべきか、「子どもたち」にどうなってほしいか。そしてそのためには「事務職員」がどうあるべきか。考えれば考えるほど課題は尽きません。しかし、それは私たち事務職員の未来に「可能性」が広がっていることに他なりません。鹿事研が策定したグランドデザインにより、私たち事務職員が自立し、協働し、そして創造して進むことにより、子どもたちの笑顔が増えることを信じています。